

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770402154	
法人名	株式会社アーバンラフ	
事業所名	グループホームさくらの家勿来	
所在地	福島県いわき市勿来町関田御城前12-1	
自己評価作成日	平成24年9月16日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成24年10月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の気づきを取り入れ、元気に生活出来るように継続したチームケアを目指している。</li> <li>・入居者とのコミュニケーションに努め、よい関係づくりに努めている。</li> <li>・家族と連絡をとり信頼関係を築く。</li> <li>・入居者の要望を聞きながら買い物に外出、食事会、ドライブ、行事を計画してストレスの軽減に努めている。</li> <li>・毎月、介護相談員・傾聴ボランティアの来所、舞踊ボランティアも楽しみにしている。</li> <li>・昼食、買い物は近隣の店舗を利用し地域の交流を図っている。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員どうしの連携が出来ている為、利用者の細かな状況をしっかりと共有できている。</li> <li>・職員は、一人ひとりの持っている力を引き出し、時間をかけて見守り中心の支援をすることで、利用者の自立した生活が保たれている。また、職員の穏やかな声かけがあり、利用者の表情も明るく和やかな空間となっている。</li> <li>・利用者は一緒に好きな献立を考え作ったり、地域交流を兼ねた夕食をするなど、食を楽しむ事で、日々の生活への意欲向上にも繋がっている。</li> </ul>
---

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>全職員が共有できるよう、理念は玄関・リビングに掲示している。理念の実践に向け努力している。</p>	<p>理念は、職員の意見を反映させて作成している。また、各職員がいつでも確認できるように携帯し、共有・実践に向けて努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>自治会に特別会員として参加し、回覧を回してもらうことにより参加できる行事などを検討しているが、日常的に交流するまでに至っていない。</p>	<p>地元中学・高校生の職場体験の場として、毎年、生徒の受け入れを行ったり、地域の草刈りに利用者と一緒に参加したりと地域とのつながりが保たれている。年1・2回の舞踊団の方々の定期的な訪問もあり、外部との交流もある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の医療機関、ご家族からの入居相談に応じ、グループホームの説明、助言を心掛けている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>災害時の避難場所について地域の方々より意見をいただき、徒歩でも移動できる場所に決定。避難計画を立て直し消防署に提出。</p>	<p>運営推進会議には、利用者家族・地域包括支援センターの担当者等が参加し、意見・要望を聞き、運営に活かしている。</p>	<p>今までは、参加者の日程の調整がつかないこともあり、年に3回程度の開催になっていたのですが、今後は利用者や新たな地域の方の参加も呼びかけることで、定期的に運営推進会議が開催できるよう計画を立て継続出来る事を期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地区センター担当者とは連絡をとり協力体制を築くように努めている。</p>	<p>地域包括支援センターの担当職員の訪問が月1、2回あり、事業所の現状を知ってもらっている。必要があれば、その都度、事業所から連絡を取り、協力関係を継続できるよう努めている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する資料を配布し、身体拘束の内容を認識してもらえるよう努めている。また、身体拘束マニュアルに沿って拘束の無いケアに努めている。</p>	<p>利用者の外出したような行動に気づき、職員の見守りで庭に出たり、眠れない時には一緒にリビングでお茶を飲んだりしながら眠くなるまで待ったりと、拘束しないケアに取り組んでいる。研修会等で拘束についての具体的な内容を職員一同、確認し合いながら身体拘束をしないケアの正しい理解を深めている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法に関する資料を配布し、理解を深めてもらい、施設内での虐待が見過ごされないよう防止に努めている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業、成年後見制度に関する資料を配布し、制度について理解を深めるよう努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時には利用者や家族に十分な説明をしている。また一方的な説明ではなく質問を投げかけるなどの工夫をしている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員、傾聴ボランティアの受け入れをして外部者へ表せる機会を設けている。また、家族来所時に意見・要望等聴くようにしている。</p>	<p>ボランティア等の月1回の訪問もあり、相談等が出来る環境作りを行っている。 洋服のコーディネートや、通院付き添いの対応など、細かな家族からの要望を聞き取り対応している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各ユニットで1ヶ月に1回、業務ミーティングを開催し意見交換し、全職員が発言し検討しあえるように心がけている。</p>	<p>毎月1回のミーティングで、業務内容やケアの方向性についての具体的な話し合いを行っている。また、夜勤の際の時間を利用し、職員一人一人とじっくり話せる機会をつくり対応している。 意見等は、検討し運営に反映されるよう心がけている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の勤務状況を把握し、実績に応じて昇給を検討している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が研修を受ける機会を確保するに至っていないが、段階に応じて研修を受けられるよう配慮している。また、ミーティング開催時に事業所内研修を実施している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との相互訪問・見学を実施し、交流機会がもてるよう努めているが、勉強会をするまでに至っていない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居して生活に慣れるまで声かけて見守り、様子を観察。傾聴に努め、他の入居者・職員と良い関係が出来るように支援していく。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の話・要望を聴きながら相談出来るように努め、連絡を取り合うようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族の意向を確認しながら関係者からの情報、主治医の情報提供書及び実態調査を行い判定会議を開き入所を決めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員と一緒に掃除、洗濯物をたたんだりする。四季折々の行事、食べ物の話をしたりテレビを見たりカラオケを楽しんだりしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事、誕生会、食事会など広報誌にして家族に送ったり必要時は本人の様子を電話連絡し家族が会いに来られる機会を持てるように支援している。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人の希望に添って連絡出来るように支援し、日々の様子を家族が来た時に伝えたり電話している。</p>	<p>希望があれば、いつでも友人・知人にも電話連絡が出来るよう支援している。家族の方には月一回の訪問をお願いし、訪問の際には居室等でゆっくりとくつろげるような配慮をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングで座る席、通院・ドライブでは会話が弾むように考慮。クリスマス会など二階の入居者の方と交流が出来るようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じ電話での相談、関係機関への紹介をしている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のかかわりの中で入居者の思いを推測しケアカンファレンスで検討している。又、家族からの情報を得て希望を取り入れるようにしている。</p>	<p>農家育ちの方が多く、屋外での草引き等の作業を好む方が多いので、職員見守りのもと、庭にできる機会を作りこれまでの生活が継続できるよう努めている。</p> <p>また、意思疎通の困難な場合は、聞き方の工夫や表情等に注意し意思が確認できるよう心がけている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの経験・思い出・暮らし方を聴いたり、家族から話を聴いたりする。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>その日の状況をケース記録、排泄状態、水分量、食事量、バイタルを健康管理表に記録して状態を個別に把握出来るようにしている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>状態の変化に応じ職員間の情報を集め家族と相談、主治医の指示を仰ぎ作成するように努めている。</p>	<p>日々の記録が細かくとられており、職員同士の情報の共有ができ、サービスに繋げている。状況に応じて細かく記された個別記録・日報が、モニタリング計画に活用され反映させている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録、日報、健康管理表、申し送りノートを記入。職員が目を通し情報を共有。状態の変化時はその都度、話し合いをもち勤務交代の時に伝える。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族が対応出来ない場合の病院受診、緊急時は相談に応じる。買い物なども代わりに行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護相談員、傾聴ボランティアの協力で定期に来ていただいたり、舞踊ボランティア、学校の職場体験も楽しみにしている。</p>			
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族・本人の希望を聞きながら話し合い、二週間に一回の定期受診の支援。希望により皮膚科、眼科、整形外科の受診を行っている。</p>	<p>かかりつけ医へ、2週に1度の定期受診を行ない家族に現状報告をしている。</p> <p>受診の際は、日々の健康管理表を持参し診察に役立てている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状況の変化時は看護師に連絡、必要時はかかりつけの病院に電話連絡し指示を仰ぐ。</p>			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した時はすぐに家族に連絡。遠方の家族の場合は了承を得て職員が立会い、入院計画書の説明を受け、家族に報告。病院関係者と家族との連絡を取りながら関係づくりに努めている。</p>			
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期の対応については出来る限り早い段階で家族に説明するように努めている。看取りの指針があり、入居時に家族説明し同意を得ている。</p>	<p>重度化した場合について、入居時に家族と話し合いを行い大まかな方針を確認している。その後の状況等の変化には再度話し合いを行い、家族の要望を聞き、医療機関との連携をとりながら、家族、医師の指示に沿うよう支援している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員には応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時のマニュアルを作成し各職員には看護師から指導している。又、出来る限り消防署の普通救急救命講習を受講するように促している。</p>			
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間を想定し避難訓練は全員参加。又、消防署立会いの下、指導を受けながら避難訓練(総合訓練)を実施している。</p>	<p>年1・2回、消防署の協力を得て訓練を行っている。震災後は避難場所を再確認し、消防署の指導を受けながら、より安全な避難場所を決め取り組んでいる。</p> <p>また、事業所内での避難訓練も毎月行い職員の防災への意識を高めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者の気持ちを大切に、一人ひとりに声かけて傾聴に心がけている。	職員は利用者の目線にあわせ、会話を心がけ、丁寧に受け答えしている。 失禁等があった場合は、他の利用者にわからないよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えだけでなく表現、表情で推測して確認しながら対応するようにしている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は決まっているが、入浴者の状態に合わせて日をずらしたりしている。自由に過ごしてもらいが居場所の確認だけはしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は出張の理・美容を毎月一回利用出来るようにしている。衣類などは家族に伝え準備してもらい。家族に許可を得て入居者と買い物に行く場合もある。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者に依頼しているが希望で献立を替えるえる場合もある。土曜のうしの日、おはぎなど。二ヵ月に一度の近隣での食事を楽しみにしている。	2ヶ月に一度の外出は、ユニットごとに希望を聞きお店を決めている。地元近隣のお店に行くことも多く、外部との交流の場となり、楽しみの行事となっている。 通常の食事でも、献立の希望を聞きながら、出来る範囲で準備から利用者も一緒に手伝い行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度、体重測定。健康管理表をもとに水分、食事量を確認。入浴後、発熱のときは水分を取れるように気を配る。主食などの加減、お粥にすることもある。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導して歯磨き、うがいの介助。夕食後は入れ歯を預かりポリドント消毒、歯科受診して指示により処置することもある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康管理表で排泄の間隔、本人に確かめながらトイレ誘導、介助する。自尊心を傷つけないように心がける。	排泄の間隔を把握し、声かけ誘導している。車椅子利用時にも、できる事を焦らずに自分のペースで出来るよう、職員は、見守り待つ姿勢を心がけ自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量は健康管理表でチェック。食事の時は副食を食べるように声かけ介助する。毎日、ビデオ体操を実施。排便困難時は受診時に主治医の指示をうける。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後を予定、入居者の気分や体調により希望に応じられるように考慮。場合によりシャワー浴をする。	基本的には午後を予定しているが、一人ひとりの体調、希望に合わせて入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況により自室で過ごしたり自由にしよう。疲れている様子の時は居室で休むように声かけする。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容は個々のケース記録に入れている。服薬介助時は飲み込んだことを確認して健康管理表にチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と朝の掃除。洗濯物をたたんだり雑巾を縫ってもらうこともある。ドライブ、花見、ボランティア(傾聴、舞踊)、介護相談員の訪問、職場体験の中学生が来ることも楽しみにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々には対応出来ないが二～三人で職員と買い物に行くこともある。家族の協力があれば自由に外出、外泊できるようにしている。	利用者の要望に応え衣料品店やパン屋さんへの外出を支援している。外出先では自分で服や食品を選び買物を楽しんでいる。また、月に1回、利用者の意見を聞き行き先を決め、ドライブへ出かけたり、近くの公園に出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は家族より預かり、預かり金として管理している。希望により買い物に出かけることもある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望があれば電話をかけられるようにし、家族からの電話の取次ぎをする。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>正月かざり、雛かざり、十五夜など季節を感じられるように考慮。廊下、トイレなど危険のないように注意し、車椅子で移動、介助しやすいようにしている。臭い、音、明るさにも配慮している。</p>	<p>利用者と職員と一緒に季節にあった作品等を作成し共有の空間の所々に飾られている。廊下やリビングは、余裕のある作りとなっており、車椅子の方でも動きやすいよう配慮されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた場所ながら気の合った入居者同士が同じテーブルで話をしたり午後、長いすに座りくつろいでいる。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物、大切に気にかけているものを持ってきてもらうように話をしている。入居時にタンス、ケースなど本人、家族と相談しながら行っている。</p>	<p>それぞれの居室は、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれていて、その人の好みや習慣が感じられる部屋になっている。また、窓から日の光が差し込み、明るく居心地の良い居室になっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレ、浴室内など手すりや安全に移動出来るように配慮しベットの楽に立てるように柵を利用している。</p>		